
第9回 江 府 町 議 会 定 例 会 議 録 (第2日)

平成23年12月13日 (火曜日)

議事日程

平成23年12月13日 午前10時開議

日程第1 町政に対する一般質問

出席議員 (8名)

1番 宇田川 潔	2番 川 上 富 夫	4番 日野尾 優
6番 越 峠 恵美子	7番 長 岡 邦 一	8番 田 中 幹 啓
9番 川 端 雄 勇	10番 森 田 智	

欠席議員 (1名)

5番 上 原 二 郎

欠 員 (1名)

事務局出席職員職氏名

事務局長 ————— 梅 林 茂 樹

説明のため出席した者の職氏名

町長 —————	竹 内 敏 朗	副町長 —————	宮 本 正 啓
教育長 —————	藤 原 成 雄	総務課長 —————	影 山 久 志
企画政策課長 —————	矢 下 慎 二	町民生活課長 —————	西 田 哲
福祉保健課長 —————	本 高 善 久	農林課長 —————	瀬 島 明 正
産業振興課長 —————	奥 田 慎 也	奥大山スキー場管理課長	岡 田 雄 成
建設課長 —————	下 垣 吉 正	教育振興課長 —————	山 川 浩 市
会計管理者 —————	森 田 哲 也		

午前10時00分開議

○議長（日野尾 優君） おはようございます。

本日の欠席通告は、上原二郎君の1名ですが、定足数に達しております。

ただいまより平成23年第9回江府町議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

直ちに議事に入ります。

日程第1 町政に対する一般質問

○議長（日野尾 優君） 日程第1、町政に対する一般質問。

質問者の順序は、通告順のとおり日程に従って行います。

なお、質問方式は1項目ごとに質問と答弁で進行しますので、再質問、再々質問があれば、その都度行います。

なお、1人につき質問、答弁を含めて60分を目途に進行します。

質問者、宇田川潔議員の質問を許可します。

1番、宇田川潔議員。

○議員（1番 宇田川 潔君） 1番、宇田川です。

一般質問として、本日、江府町行政の刷新と職員の能力向上策についてを提案いたします。

国内情勢の変化で、地方自治体を取り巻く環境が大きく変化する中、我が町は財政難や集落間の活力格差などの課題に直面しており、スピード感を持った対応が求められております。課題を解消し、地域活性化を実現するには、官民一体となって戦略を練り、確実に実行していくことが重要で、そのためには町職員の執務能力を一層向上させる必要があると考えます。町職員には、目の前の業務をこなせばよいという姿勢から、主体的に町づくりに取り組む積極的な心意気と力量を求めたいと思います。

具体的な対策の一つに、町職員の評価育成制度の導入が考えられます。職員一人一人が自己の業務の遂行に対して目標を定め、計画を立案して実行した後に自己評価し、改善するという仕組みです。これを繰り返すことで行政の課題を的確につかみ、専門性を生かして戦略的な企画を立てる能力を高められると考えます。

次に、町職員としての洞察力や使命感、責任感、企画力などの資質を高揚する手段として、旧態然とした年功序列の昇任人事にメスを入れる抜本的な人事改革も必要です。民間企業などを参考に、昇任基準を明確にした上で登用試験を実施するという制度を導入してはいかがでしょうか。

競争意識を醸成させ、真に実力のある人材を管理職に登用する体系を確立することで、職員の士気を今以上に高めることができると考えます。町長の所見を伺います。

○議長（日野尾 優君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） ただいま宇田川議員より、江府町行政の刷新と職員の能力向上策について御質問をいただきました。また御提案もいただいたところでございます。

私も、地域活性化を実現していくためには、今の時代、また、私ども小規模町村にとりましては、官民一体となって戦略を練って確実に実行していくことが重要ですよという御質問の内容ございましたが、私も同感でございます。やはり、小規模町村ほど役場職員に対します住民の期待感、また指導力等は大いに期待をされ、また、地域に帰った場合については、やはり大きな人材になり得ると思います。ただ、町職員の能力向上が必要であることは当然でございます。今、職員の評価育成制度導入と管理職登用のための試験制度導入をしてはどうかという御質問をいただきました。

まず、最初の職員の評価育成制度でございますが、本町におきましても、現在、人事評価制度の試行をいよいよ始めようということにいたしてるところであります。今年度中にはきちっとした形で試行したいと考えております。

現在考えています人事評価制度は、正直申し上げまして、ただ点数をつける評価ではなくて、管理職と一緒に話し合いを行って、自分の仕事を振り返ることで改善点を見出し、新たな目標設定をしていくというようなやり方に考えております。行政施策の推進、町づくりにはよりよい職場環境が大切と考えますので、まず職場全体が一丸となって業務に取り組むよう、職員同士のコミュニケーションに重点を行う人事評価制度の導入を図りたいというふうに思っております。

ただ、単独町政を歩んでから、本町のような小規模、職員数も限られております。そういう中で、当然、給与等の削減等も行ってきました。より人員、定員管理もやってきました。少数精鋭という形で職員も一生懸命、努力はいたしておりますけども、住民の期待はそれ以上のものがあろうと思います。この人事評価制度を導入いたしまして、管理職、職員一体となって住民の負託にこたえるよう努力をさせていきたいと、指導をしてまいりたいというふうに考えております。

次に、管理職の登用についてですが、御指摘のように旧態依然とした年功序列による人事は、現在行っておりません。それぞれの職員の能力、意欲等評価しながら、適材適所、管理職に登用いたしているところでございます。

登用試験についての御質問がございましたが、私ども小規模町村、また各県内の町村を見ましても、現在のところそのような制度を取り入れておりませんし、限られた人材で努力をいたしておりますので、試験登用については考えていないのが現状でございます。先ほど申し上げました人事評価というものを、きちんとした形でまず対応してまいりたいというふうに考えておるところでございます。今後とも御指導いただければ幸いですというふうに思っております。

以上、答弁にかえさせていただきます。

○議長（日野尾 優君） 再質問があれば許可します。

宇田川議員。

○議員（1番 宇田川 潔君） 私は、行政経験はございません。企業で育った人間でございます。そういった観点から御提案を申し上げておりますので、若干ちぐはぐな面があるかも知れませんが、私の経験から申し上げた問題提起でございます。その人事問題については、既に鳥取県が数年前から年功序列人事を改めて、能力重視、能力主義の人事登用を行っていると聞いております。以前、町長さんとお話をしたときに、職場の和を大事に尊重したいというお話を伺ったように記憶しております。しかし、若い能力のある職員を育てるため、できれば競争意識を醸成させるような制度を導入されてはどうかということで、御提案を申し上げております。和というのは、組織の運営、業務の効率化等においては非常に大切であると思っておりますが、また、みんなが仲よしくクラブでもいけないというふうに考えております。和の基本、原点は職場規律の確立と、私は思っております。その点について、一言お聞かせ願いたいと思っております。

先ほどの町長の答弁でおっしゃいましたが、さきの所管事務調査で、私どもの方からも職員の人事評価制度の導入を御提案をしております。本年度中、2月をめどに内容を提示したいという御回答をいただいております。その点、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。以上、質問をいたします。

○議長（日野尾 優君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 私どものような70名を割るような職員体制の中で、それぞれ一人一人が大切な人材でございます。そういう中で当然、競争意識というものも醸成をする必要はあろうと思っておりますけれども、やはり和をもって大事をなすという言葉もございまして、やはり小さな町村でございますので、やはりしっかりとその中では切磋琢磨するにしても、それぞれの課、課長以下、職員が住民の負託にこたえるよう、しっかりと切磋琢磨していくことが必要であろうというふうに考えます。そのような意味で、和という言葉を使いながら、過去、御説明をしたとい

うふうに思います。

それから、人事評価制度については、先ほど御答弁申し上げましたけど、もう具体的な方法とかいうのは確定いたしましたので、一度に導入ということは難しいので、多少の修正も必要でございますから、試行という形で具体的に動き始めさせていただければというふうに思っております。

○議長（日野尾 優君） 再々質問があれば許可しますが。

これで宇田川潔議員の一般質問は終了します。

○議長（日野尾 優君） 続いて、質問者、川上富夫議員の質問を許可します。

2番、川上富夫議員。

○議員（2番 川上 富夫君） 議長のお許しを得ましたので、一般行政について、災害対策と観光についてということで質問させていただきます。

昨年末、12月31日の大雪により、奥大山のスキー場の雪崩事故から1年が経過しようとしております。あすは慰霊碑の除幕式等もあるようにお聞きしております。大変な大雪の中で、スキー場の安全対策について、特にスキー場も、去年は、今年度ですけども、スキー場の縮小で大幅な人の入り込み、売り上げも落ち込んでおります。さらには東日本の大震災、そして9月には台風12号による大雨で、奥大山を中心とし、被害は甚大なものであります。特にスキー場の烏橋の1号、2号の被害が大きく、道路の寸断、断絶などにより通行どめ等があり、また、田畑の流れもあったというふうにお聞きしております。このような異常な気象により、特に雪、雨、これは、このごろについては特に大きな災害を招いております。この中で、特に木谷沢の沢の観光は一変しております。今までたくさんの方がいやしのためにも来ていらっしゃいました木谷沢は見ると影もなく、大変に悲惨な姿にもなっております。そして、スキー場については、雪崩防止さくを含めて安全対策をしっかりとされて、何とかこのシーズンには間に合う形となっております。特に奥大山スキー場は、再起へ向けて全力で取り組まなければなりません。それに付随する道路の整備、今は、橋については応急の橋が、仮橋がかけてありますし、道路についても応急の処置がされておる状況であります。そのような状況の中で、これからまた再起をかけていく江府町とすれば、災害等で大変な被害を受けた奥大山を中心とした観光の復旧についてどういう道筋を立てておられるか、お聞きするものであります。

また、それにあわせて台風12号による農地、水田、そして水路の被害は至るところで大きな被害をもたらしております。これの復旧につきましては、先日の本会議の中で、復旧についての

予算等の提示もあり、されることは伺ってはおりますけども、さらに農業をその上に発展させていくためには、これから町長のリーダーシップは大きなものがあると思います。観光の復旧、農地、水田の復旧について、町長の所見を伺うものであります。

○議長（日野尾 優君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） ただいま川上議員の方から、災害対策と観光について御質問を受けました。あわせて農業振興につきましても質問いただいたところでございます。

まず、昨年末の大雪では、奥大山スキー場で発生いたしました雪崩事故により、4名のパトロール員がその犠牲になりました。大変痛ましい事故が発生したわけでございます。いよいよ1年を迎えようとしています。

事故後、私どもは専門家の方をお願いして、事故原因について調査をしていただくとともに、安全対策についても御提案をいただきまして、従前より御協議を申し上げております安全対策事業を実施してまいりました。その内容については、詳細に御報告なり御協議を進めておりますが、雪崩防止さくを設置が完了いたしました。また、気象状況を24時間観測し、警戒区域を超えた場合には携帯無線機10台に警報で知らせ、事務所を含めた携帯無線電話等で通話ができる警戒気象観測情報システムを設置をいたしました。先般、積雪がございましたけれども、早速これが稼働いたしておるところでございます。事務所のコンピューターの方に第2リフトの積雪が59センチ、気温が幾らというようなことは瞬時に入ってくるようになりました。

また、昨年の雪崩の原因であろう、第2リフトの上層部の雪庇部分についての積雪情報につきましても入ってくるようにしてございます。一定の積雪以上になりますと警報が出てまいりまして、ゲレンデにおります、先ほど説明しました携帯無線機10台には自動的に警報を知らせると、第2リフトを運休をさせるというような緊急処置もできるようなシステムでございます。そのように、先般の積雪でも順調に稼働してるようでございます。また、ホームページ開設によりまして、その状況はホームページ上でごらんいただけるような状況にも対応しているところでございます。

いずれにいたしましても、あわせてソフト事業といたしましても、スタッフ全員を対象にしたり、パトロール員を対象にしたり、雪崩の専門家から講習を受け、安全なスキー場として安心して御利用いただける体制を築いているところでございます。また、今後積雪がありますと、やはりその現場における安全教育、安全研修ということも計画をさせていただいておるところでございます。

また、そういうことで、大変スキー場につきましては対応をしておりますけども、やはりお客さんにしっかり来ていただきたいという思いもございまして、実は、今シーズン初めて、先般、県内のスキー場を持ってあります町村、若桜町、大山町、伯耆町、江府町、日南町によりまして、いろいろとみんなで力を合わせて鳥取県のスキー場にお客さんが来ていただけるような施策を講じようということで、キャンペーンを開いております。詳細にはいろいろ計画はございますけども、19歳を対象にした、それぞれスキーリフトの割引なり無料化と同時に、同じスキー場、5カ所が同時に同じキャンペーンをやっというふうなことも、初めて対応するようにいたしております。

また、スキー場関係におきましては、この秋から台風12号によりまして大変な被害を受けたわけでございますけども、被害後、知事も早速現場においでいただいて、紅葉シーズンに向けての仮復旧についてお約束をいただき、現実、10月の20日という期限を一つ設定しておりますたけども、それにきちっと間に合わせるような対応をいただいて、多少の不便はあったと思っておりますけども、紅葉シーズンに間に合ったところでございます。

また、スキー場周辺においては、この秋には旨いもん祭りやミニバーガーフェスタなど、イベントを積極的に開催し、多くの来場者を得たところでございます。やはり、今後につきましてもそのような形で、冬季シーズン以外にもやはりきちとした来客を、観光客の誘致に取り組むイベントというものもやはり必要ではないかというふうにご考えておるところでございます。

台風12号のつめ跡は、大変江府町全体、また大山水系等にも大きな被害をこうむったわけでございますが、御質問でもお話をいただきましたし、昨日、補正予算として先議を賜りました災害等の復旧について、国の査定も終わったところでございます。これらの対応をしっかりとし、特に農地1件、農道3件、水路3件、頭首工2件の計9件、農林災害的には出ております。3月までの施行完了、稲作の植えつけに間に合うように対応をしまいたいと思います。数字的には、昨日、補正予算で説明いたしておりますのでよろしく願いいたします。

ただ、お話にもございました木谷沢の溪谷は、大変いやしの場所として、また江府町の一つの奥大山のメインとしてPRをしておりましたが、残念ながら、木谷の水量といいますか土砂流出によりまして、その姿が大変変貌をいたしたわけでございます。なかなか自然の現象でございますから、これが従前のような形に戻るには数十年の月日も必要だというふうには考えておりますが、私も実は遊歩道の復元を何とかしておきたいということで、県の方にお邪魔をいたしまして、来年度予算の中で御支援をいただけるような要望を積極的に対応いたして、感触的には、まだ正式な予算の状況は見えませんが、前向きな県の方から御回答を得ております。遊歩道の復元

については、積極的に対応したいと思います。

ただ、河川内の工事につきましては、国立公園でもあり、また自然の景勝の中でございますから、余り人工的な復旧ということはできないというふうには思いますけども、でき得れば、砂防堰堤等にたまっております土砂の一部をしゅんせつをしながら河川流量の状況を見守りたいというふうに思っております。何とか自然の力で回復をして、以前のような形に一日でも早くなってくればなというところで考えているところでございます。

また、本町では、災害に対しまして単独、町の補助制度を設けております。この春の豪雪に対しましてもその制度をつくりまして、住民の皆さんに対応しておりました。お申し出がありました被害が約54件、ひさしが壊れたとか、屋根が壊れたとかいうことでの支援を予定しておりましたが、54件の御申請がございましたが、結果的には損害保険等で全額賄えたというようなことで、具体的には38件の補助をするようにいたしております。金額的には386万円の支出の予定にさせていただいております。

また、9月の台風におきましても、農業の振興、生産の意欲を衰退してはだめだということで、同じように町単独の支援策を講じまして災害復旧事業補助金制度を設けましたところ、11月末現在で申請件数が32件、補助金額で255万5,000円となっております。御照会等は100件以上に上りまして、御照会をいただきまして、職員が早速現地の方に赴きまして、それぞれ御要請のあった方々と現場を確認をしてまいったわけでございますけども、先ほど申し上げましたように、32件、補助金額255万5,000円ということになっております。ただ、分担金、負担金を払っても、国の査定を受けて国の制度にのりたいということにつきましては、昨日お話をしたような、補正予算の中で説明をしたような状況でございます。

いずれにいたしましても、観光については、やはり積極的にイベントは打っていかざるを得ないと思います。やはり多少、町の支援という費用の部分は出てまいりますけども、やはり奥大山の知名度を上げる、災害でどうなのかという不安感、そういうものを払拭するためにも、積極的なイベント開催を通じていかなければいけないというふうに思っているところでございます。

スキー場については、より一層の安全、安心なスキー場として、緊張感を持ったスキー場運営に努めてまいりたいと思いますので、御理解と御支援をお願い申し上げまして、御回答にさせていただきます。

○議長（日野尾 優君） 再質問があれば許可します。

川上富夫議員。

○議員（2番 川上 富夫君） ありがとうございます。

奥大山についての、特にこれからの復旧については、特に責任者である町長のリーダーシップが大きな役割を果たすと思われます。

一例を申し上げますと、東国原知事が、前の宮崎県知事ですけども、大阪の橋下知事のところで街頭での演説のときに、そこに地鶏の大きなマークといいますか、宮崎県地鶏、そういうふうなものをいつも持って、応援というよりも、地元を絶えずPRするというふうな姿勢でやられたというふうにお聞きしております。そういう意味でも、ぜひほかのところに向かわれるときにも、特に奥大山、そういうふうなものをしっかりとPRしていただくようによろしくお願いをしたいということと、それから、イベントにつきましては、大変に紅葉の時期にしっかりとイベントは本当に組んでいただいて、たくさんのお客さんに来てもらって、奥大山の復興ができたなというふうに思われました。これが冬の時期にもしっかりと何かの方向でイベントを組みながら、安全な奥大山のスキー場であることをPRしていければいいかなというふうに思いますので、ぜひその点についても考えていただければというふうに思っています。

そのほかにつきましても、災害の対策についてはいち早く、ことしの冬、雪がどうなるかわかりませんが、たくさん降ったときの対応、それから雨の対応、素早い対応をぜひしていただいて、安心して住んでいける江府町に進めていただくよう、よろしくお願ひして質問を終わります。

○議長（日野尾 優君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 先ほどの御答弁の中で、1点だけ答弁漏れをしておりましたので、報告をさせていただきたいと思ひます。

県道につきましては、仮復旧は積極的に対応いただいておりますけども、本復旧に向けての対応につきましても、町の方から積極的に県の方にお願ひをいたしておるところでございます。本復旧については、やはり安全な安心した観光道路ということを基本原則に、早急な復旧に対応いただくよう、町といたしまして、私といたしましても御要望をしっかりとさせていただいておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（日野尾 優君） 再々質問があれば。

○議員（2番 川上 富夫君） ありません。

○議長（日野尾 優君） これで川上富夫議員の一般質問は終了します。

以上、一般質問を終了します。

○議長（日野尾 優君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

これをもって散会とします。

午前10時30分散会
